

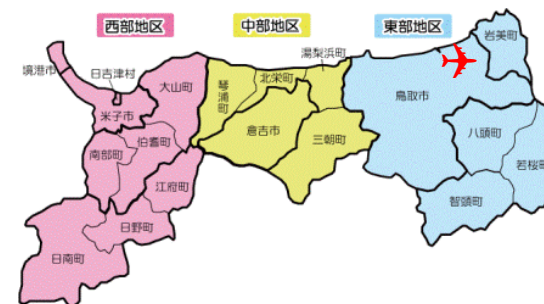
第16回鳥衝突防止対策検討会
平成30年1月19日

鳥取空港 現地対策研究会

鳥取空港現地対策研究会

- 日 時 平成 29年 9月 7日 (木) － 8日 (金)
- 出席者 樋口委員 橘委員 佐藤委員 北原委員(航空局 空港安全室長)
- 全日本空輸 ANAウイングス
- 成田国際空港 (株) 中部国際空港 (株)
- 航空局 鳥取県庁港湾空港課 鳥取空港管理事務所

- ◆ 鳥取県東部に位置し、日本海側気候に属し冬期は積雪があり、夏期は比較的高温となる
- ◆ 日本海 (北)、日本最大面積の湖山池 (南)、一級河川の千代川 (東)と水場に囲まれている
- ◆ 付近には保安林、緩衝緑地、調整池、畑・民家など鳥を誘引する環境がある
- ◆ 大阪空港事務所にて他飛行場援助業務 (鳥取りモート) が行われている
- ◆ 鳥取という地名は、古代に鳥の捕獲を職業としていた「鳥取部」に由来するといわれている



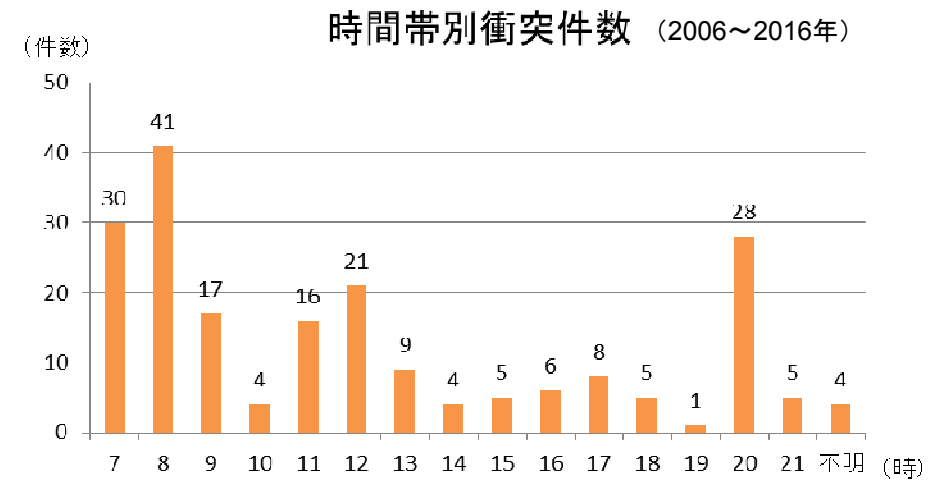
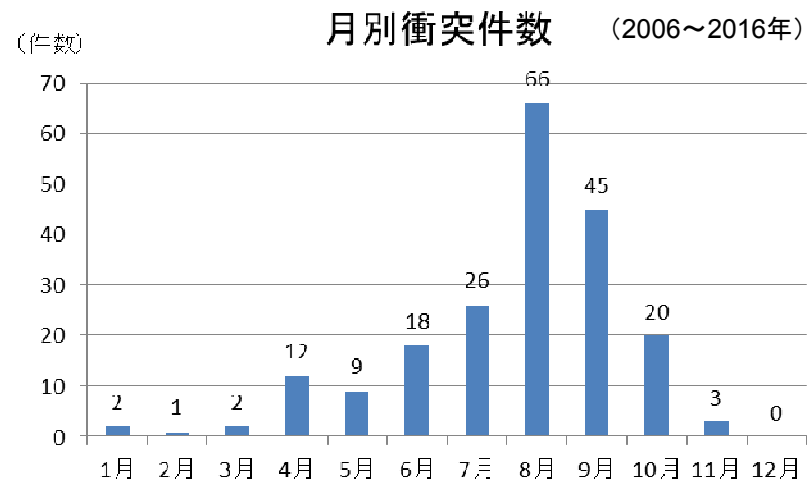
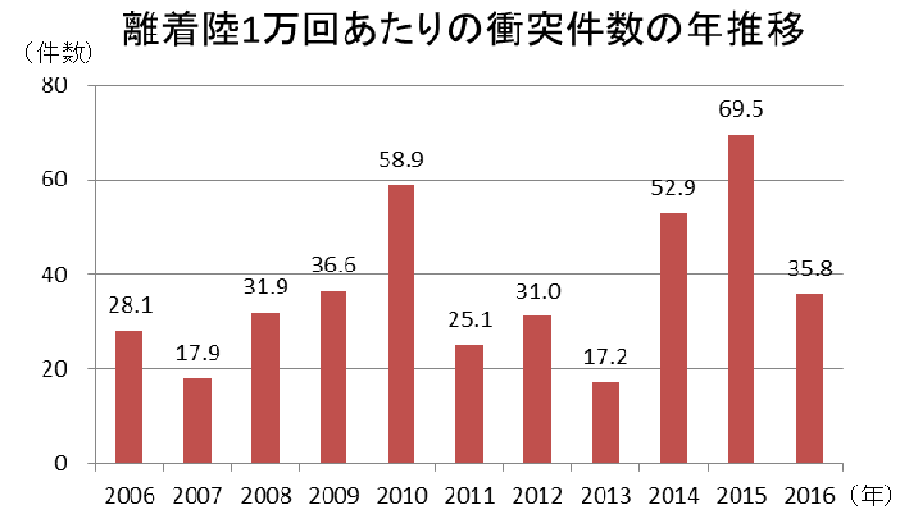
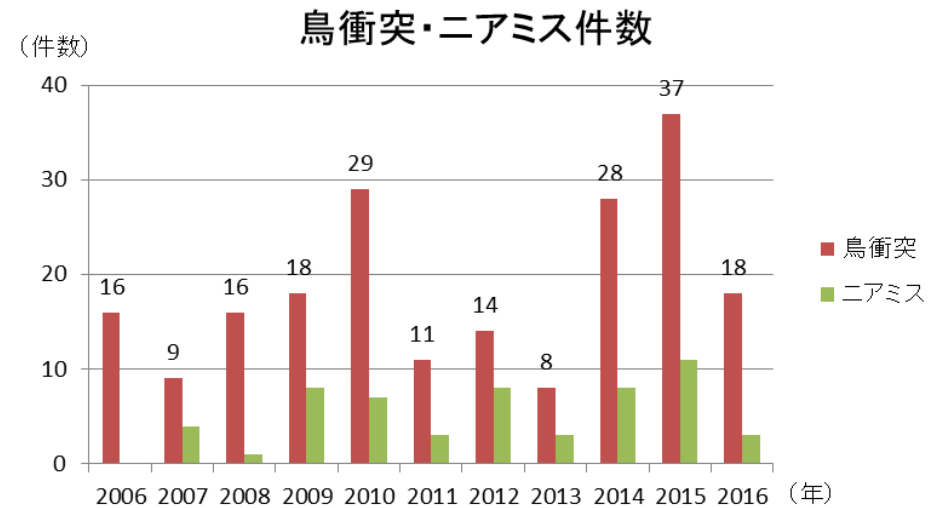
定期便 … 5往復10便（全て東京便）

チャーター便：10便（H27）

16便（H28）

50便（H29.12末現在）

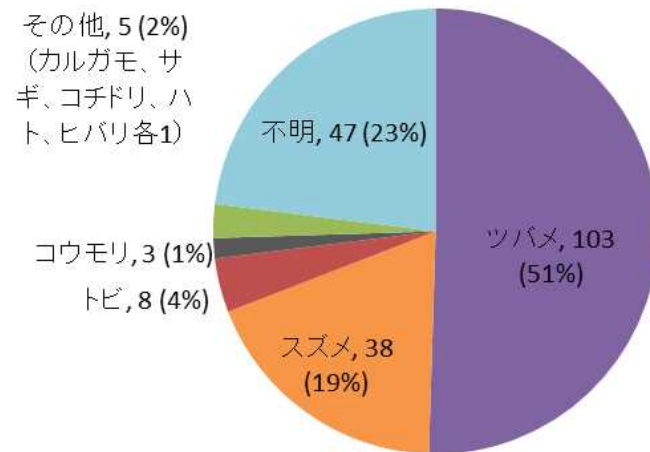
鳥取空港の鳥衝突状況



※鳥衝突情報共有サイトに報告された鳥衝突情報を基に作成

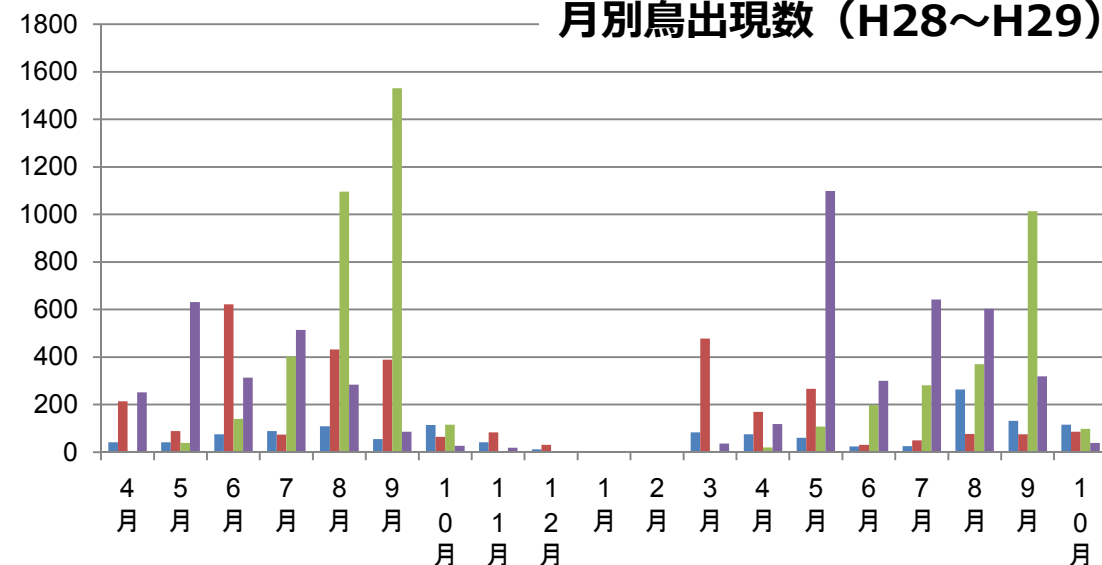
鳥取空港に出現する鳥種と衝突の傾向

種類別衝突件数



204件 (2006～2016年)

月別鳥出現数 (H28～H29)



■ トビ ■ カラス ■ ツバメ ■ その他



- ・ ツバメ（夏）は建物などに巣を作り、電線、滑走路上に群れていることがある。
- ・ ヒバリ（春～夏）は着陸帯の草地周辺、カラス（春～夏）トビ（通年）は全域で見られる。
- ・ シラサギ、アオサギ（通年）カモ（冬）は調整池の周辺に多く見られる。



現地連絡協議会との共催

鳥取空港 鳥衝突防止連絡協議会メンバー

空港管理事務所(事務局) 大阪空港事務所(対空援助) ANA鳥取空港支店
県警察航空隊 県消防防災航空センター 鳥取空港ビルサービス(バードパトロール)

✓ 現状の鳥衝突の状況と対策について

■ 環境対策

空港周辺は県の建設計画にて植生・畑・森が減少
滑走路周辺の草丈管理(15cm)や殺虫剤の散布

■ 防除対策

滑走路上バードスイープを夜間を除く全ての定期便離着陸20分前から実施
委託業者による鳥や中型ほ乳類の駆除を通年で実施
+ 鳥衝突多発期(夏～秋)はバードスイープ・駆除体制を強化



✓ 委員への質問/意見交換

■ ツバメの生態

- ・草地帯で採食後に休息のため、暖められた滑走路に飛来する。
- ・ツバメは渡り鳥であり、秋の時季の日中帯に日本海沿岸を西に向け飛来し、多い時は数万羽で群れる場合がある。

■ 餌の減少を目的とした殺虫剤の散布

- ・他空港で実例が少ないため効果があるかしっかり検証して欲しい。

○鳥取空港における鳥衝突防止対策に関する委員からの意見

- ・ **トビなどの猛禽類対策については継続して対策を行うこと。**

出現数が少なく、近年衝突がないとしても、衝突した場合の危険性は高い。
鳥取空港近辺に普段出現しない個体（トビ）が飛来し衝突する可能性がある。

- ・ **ツバメに特化したバードパトロール（防除対策）を検討すること。**

鷹による威嚇も効果的と思われる。
他空港のツバメ対策の事例も参考にすること。

- ・ **県内のツバメの生態に詳しい専門家に質問すること。**

鳥取など日本海に面する地域は渡り鳥が通過経路下にあり、ツバメの環境対策は事実上困難であるが、ツバメのねぐらなどを特定することで防除対策の一助となる。



提言にもとづいた取組み

STEP1 鳥衝突防止計画の検証

多発期の体制強化や殺虫剤の効果をチェックし更なる対策の必要性を判断

STEP2 鷹の鳴き声による威嚇効果の検証（2018年3月頃を予定）

課題1 音源の入手 実際の鷹の声を録音したテープの作成を検討中

課題2 バードパトロール車両への装着

STEP3 日本野鳥の会鳥取県支部とコンタクト

- ・鳥取空港近くにツバメの大きなねぐらはないと思われる。
- ・湯山（鳥取砂丘の東）にまとまったねぐらがある。
- ・空港に現れるツバメは空港内か付近で繁殖したものではないか。
- ・数としてはそんなに多くないと思う。
- ・2018年春以降の繁殖生息状況の情報を展開する。



航空機とツバメの衝突減少を目指す！